

2026年7月7日

「とうほうポジティブ・インパクト・ファイナンス」に係る  
モニタリングの実施について

東邦銀行（頭取 佐藤 稔）は、「とうほうポジティブ・インパクト・ファイナンス」（※以下、「とうほう PIF」）に係る、モニタリングを実施しましたのでお知らせいたします。

2026年6月までにお客さまと設定した KPI（重要業績評価指標）に関する進捗などのお取り組み状況を対話し、別添のモニタリング結果報告（一般財団法人とうほう地域総合研究所（理事長：矢吹 光一）にて作成。）の通り、ポジティブインパクト拡大とネガティブインパクト緩和に向けた達成状況を確認しております。また、必要に応じて、お客さまへのコンサルティングやビジネスマッチングなどの各種ソリューションを提案しております。

当行では、2030年までに合計 1.5 兆円のサステナブルファイナンスを実行することを目標として掲げており、今後も多様な金融手法を活用しながら、お客さまのサステナビリティ経営をサポートしてまいります。

（※）お客さまの事業活動が、環境・社会・経済にもたらすインパクトを包括的に分析・評価し、ポジティブインパクトの拡大とネガティブインパクトの縮小に向けた支援を目的とするサステナブルファイナンス商品です。「とうほう PIF」の実施体制は株式会社格付投資情報センターより、ポジティブインパクト金融原則に適合している旨のセカンドオピニオンを取得しています。とうほう PIF を契約したお客さまとは、設定した KPI の達成状況に関し、当行と一般財団法人とうほう地域総合研究所が年に 1 回モニタリングを実施し、融資期間中に亘って KPI の達成に向けて伴走支援を行っております。

記

【モニタリング実施企業】

企 業 名	みちのく陸運株式会社 代表取締役社長 遠藤 武義
-------	--------------------------

以上



東邦銀行グループでは、『サステナビリティ宣言』を制定し、グループ全体で地域経済の活性化や社会的課題の解決に向けた取組みを通して“地域社会に貢献する会社へ”を目指しています。

東邦銀行

# みちのく陸運株式会社様 サステナビリティ経営への取組み



みちのく陸運株式会社様が設定した目標・KPIは達成に向けて着実に進捗しております。環境面では、最新の排出ガス規制に適合した車種の導入や、社内一丸によるエコドライブの徹底などによりCO2排出量削減に努め環境保全に取り組んでいます。社会面では、免許取得費用を負担するなど他業種からも積極的にドライバーの採用に努め、ドライバー不足緩和と労働時間抑制を図っています。さらに、安全管理体制の強化により、重大労働災害のリスク軽減に努めており、安定した輸送サービスの提供を通じて、社会インフラとしての役割を果たしています。経済面においては「物流を通して社会に貢献し、豊かな地域と未来を創る」の企業理念のもと、チャーター便による効率的な輸送により、地域の物流を支え地域経済の発展に貢献しています。初年度のモニタリングではありますが、着実に活動しており、さらなるインパクトの創出が期待されます。

一般財団法人とうほう地域総合研究所

## SDGsの取組内容と達成状況

### ■ 環境

- 所有するトラックの平成28年排出ガス規制適合車導入率は85.1%となっています。今後も計画的に最新の規制に適合した車両に切り替え、CO2排出量削減に努め環境保全に取り組んでいます。
- 2024年問題の対応（時間外労働制限）により高速道路を利用した長距離ルートが減少し、燃費改善に悪影響を与えたが、社内一丸でエコドライブの徹底を図り、燃費は前年より改善しています。
- 環境保全に対する体制の適宜見直しや施策を執行しており、グリーン経営認証登録を維持しています。

インパクト	取組内容	KPI目標	KPI実績
サステナブルな物流で未来を創造する	・新たに導入する車両は、尿素SCRシステム（NOx除去技術）が搭載された最新の排出ガス規制に適合したものを採用	・2029年12月期までにH28年排出ガス規制適合車導入率を100%とする	H28年排出ガス規制適合車導入率85.1%
	・従業員のエコドライブ意識醸成のため「低燃費走行表彰」の継続実施、車両の適切なメンテナンスによる性能劣化の低減	・2029年12月期までに燃費実績を3.72km/ℓ以上とする	燃費実績3.48km/ℓ
	・社内の環境保全に対する体制の適宜見直しおよび各営業所長を中心とした適切な車両の点検、整備の実施、記録の継続	・グリーン経営認証の登録を維持する	グリーン経営認証登録維持

### ■ 社会

- 空車回送割合は、2024年問題による労働時間規制強化に則した運行管理を行うなかで、空車回送せざるを得ないルートも発生し、前年実績からやや悪化しました。
- 全運転手の平均時間外労働時間の目標は達成しています。社内意識の徹底が進展したことや、免許取得費用を負担するなど他業種からも積極的にドライバーの採用に努め、ドライバーの増員と労働時間抑制を図っています。
- 有給休暇の取得促進に向けて、運行ルートや個々人の働き方への意識の違いといった課題があるものの、従業員の新規採用を進めることで人員体制に余裕を創出し、休暇が取得しやすい環境整備に取り組んでいます。
- ドライバー専用のシャワー室、仮眠室の整備、安全運転教育の徹底、運行管理の強化など、輸送に集中できる環境づくりを行っており、重大労働災害発生件数の防止に取り組んでいます。

インパクト	取組内容	KPI目標	KPI実績
ワークライフバランスを実現できる職場環境の整備	・自社独自の配車システムとドライバー情報、運行管理などを連携するDXの高度化、荷主や地元の運送事業者との連携による積載効率の高い運行計画、空車回送の少ない運行計画の立案	・2029年12月期までに空車回送割合を10.8%以下にする ・2029年12月期までに全ドライバーの平均時間外労働時間を624時間/年以下とする	空車回送割合16.8% 平均時間外労働時間682時間/年
	・業務に必要な資格取得費用の会社負担の継続、休暇制度のさらなる充実に向けた就業規則等の社内規則の適宜見直し	・2029年12月期までに全従業員の年間有給休暇取得率を58.4%以上とする	年間有給休暇取得率50.4%
	・置き型健康社食やドライバー専用のシャワールーム・洗濯乾燥機・仮眠室の整備をはじめとした、輸送に集中できる環境づくりの維持・充実	・重大な労働災害の発生件数0件を維持する	重大労働災害発生件数0件

### ■ 経済

- 車両およびドライバーを増員したことにより、一人あたりの労働時間を抑制しつつ、チャーター便取扱量も増加しています。今後も荷主のニーズに添いながら効率的な輸送を図っていく方針です。
- ドライバーへの教育の徹底、最新の安全機能が搭載された車両を積極的に導入するなど安全管理及び法令順守に努め、Gマーク事業所認定を維持しています。

インパクト	取組内容	KPI目標	KPI実績
安全・確実・迅速な物流で、人々の暮らしを豊かに	・新規取引先の拡大のため荷主の細かいニーズへ応えるべく、保有車両の多様化や、既に取り引実績のある荷主からの信頼性向上のため、ドライバーの積極的採用による輸送能力の増強や荷主のニーズに添った運行計画の提案	・2029年12月期までにチャーター便取扱量を220,741トンキロ以上にする	チャーター便取扱量208,033トンキロ
	・ドライバーへの教育の徹底、安全会議の定期的な開催、最新の安全機能が搭載された車両を積極的に導入	・Gマーク事業所の認定を維持する	Gマーク事業所認定維持